

社会教育情報

くべっ川



2012(平成24)年5月1日

第210号

標津町教育委員会

☎0153-82-2900

広がる「あいさつ運動」の輪… ～標津高校生・老人クラブが呼び掛け～

健全な青少年を育てる標津町民の会では、4月6日から13日までの期間、「春のあいさつ運動」を行いました。

運動スタートの前日、4月5日、あいさつ運動を実践している標津高校の生徒12人を先頭に、同会の藤本謙二会長、金澤町長らで、役場や漁協、農協、商工会などの事業所を訪問。「あいさつは、コミュニケーションの基本。高校生らしい、さわやかなあいさつで、元気な地域づくりに役立ちたい」と高校生が力強く訴え、各事業所の職員一人ひとりに啓発用のチラシやティッシュを配布し、職場からの運動推進を呼び掛けました。

街頭啓発では、児童・生徒の登校時間に合わせ、同会や町内会、PTAの皆さんらによる主要な交差点での声掛けのほか、今回から標津と川北の老人クラブが、標津小と川北小・中の生徒玄関前で子どもたちに、「おはようございます」と声掛けを行いました。

このように、高校生や老人クラブ、町内会など、地域が一体となった取り組みの運動の輪が広がってきました。

あいさつ運動は、次代を担う「人に優しく、思いやりのある標津っ子」を育てるための運動であり、家庭・地域・学校が一体となって取り組まなければなりません。

明るいあいさつが交わせる子どもを育てるためには、大人が率先して子どもに声掛けすることが大切です。つまり、この運動は心豊かな「標津っ子」を育てるための大人の運動なのです。



役場や漁協、農協などを訪問し、「さわやかなあいさつで元気な地域づくりを」と呼びかけた標津高校生12人



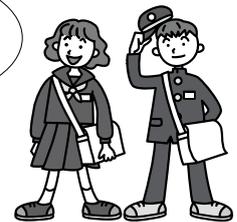
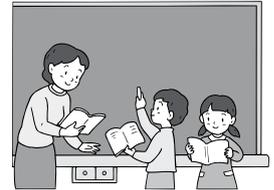
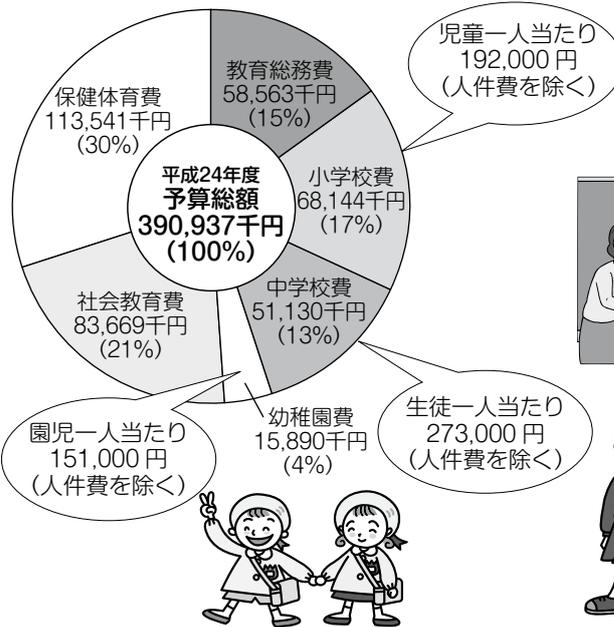
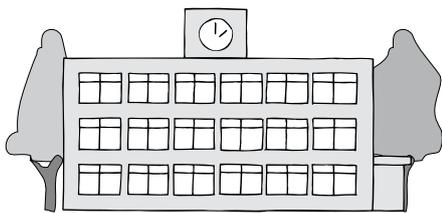
「おはようございます。」子どもたち一人ひとりに声を掛ける老人クラブの皆さん(写真は、標津寿会)

平成24年度 教育関係当初予算概要 予算総額 3億9,094千円

平成 24 年度教育費当初予算

平成24年度一般会計予算総額は、57億6,500万円で、前年度と比較して、5.0%の増を示しています。

このうち教育委員会にかかわる当初予算額は、3億9,094万円で、前年度と比較して、3.2%の減であり、一般会計に占める割合は6.8%（前年度7.0%）となっています。



【「知・徳・体」のバランスのとれた確かな学力の向上を目指して!!】を本年度の学校教育予算の基本テーマとし、下記3つの重点テーマを定め、総合的・計画的な取組を推進するための予算を計上しております。重点テーマ毎に主な施策を紹介いたします。

重点テーマ① 『学びの土台づくりのための「一貫教育と学力向上」』

★小中学生保護者への負担軽減費アップ

■副教材・実験実習費等教材費の統合し、義務教育段階での保護者の負担軽減の充実を図ります。
小学校5,000円・中学校10,000円（1人/円）

★幼保小中高連絡協議会の充実 【120千円】

■「子どもの育ちをつなぐ」ため校種間の垣根を超えた発達と学びの連続・一貫した体制の構築や出前授業、学校行事による相互交流などの取組を推進します。

★全国学力・学習状況調査の実施

■児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
(対象学年：小6年・中3年)

★新学習指導要領学力向上対策調査研究事業 【341千円】

■改訂内容を適確に捉え、実践的手法などを調査研究し、本町の学力・教育力向上を図ります。
(文科省指定：川北小学校・川北中学校)

★管内学力向上実践研究事業 【60千円】

■全国学力・学習状況調査結果を活用した「学力向上に向けた」学校改善実践研究の成果の普及を図ります。(根室教育振興会指定/指定校：川北小学校・川北中学校)

★ICT教育・教材備品の充実

■児童・生徒の情報活用能力の育成、各教科等でのICTを活用した確かな学力の育成を推進します。

- ・デジタル教材の本格実施 (小4教科・中3教科) 【615千円】
- ・デジタル教科書の試験導入 (継続/理科小3～6年生) 【320千円】
- ・教育用コンピュータリース経費 【9,492千円】
- ・北海道公立学校校務支援システム導入 【720千円】
- ・義務教育教材、理数教材の整備 【3,635千円】

★「ふるさと教育」の教育課程位置づけによる実践 【128千円】

■標津をフィールドとし地域の人材や素材を活用し、実践的な問題解決型学習に取り組めます。

★特別支援教育の充実

■障がいのある幼児児童生徒の自立に向け、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適正な就学相談や就学指導及び必要な支援をします。

- ・町適正就学委員会や関係機関との相互連携 【503千円】
- ・学校介助員配置：2名(標津小・中) 【3,344千円】

★ふるさと給食(食育)の推進 【700千円】

■地場産物に対する理解を深め、郷土を大切にすることを育みます。

重点テーマ② 『学ぶ場の充実のための『安全・安心な快適環境の整備』』

★教育環境の整備・充実

■児童生徒が安全に安心して学校生活をおくれる教育環境を目指し、安全教育の推進、快適な教育施設整備の充実を図ります。

- ・学校安全危機管理マニュアル及び防災訓練等による安全教育を推進し、児童生徒自らも自己を守る能力や態度を育成します。
- ・学校等施設の年次的改修・営繕【20,338千円】
屋上防水改修工事(川小)・暖房機整備(川中)
教育施設等遊具点検(保幼小中)等

★教員住宅の整備・充実 【4,086千円】

■健全な学校経営に寄与できるよう良質な住環境の維持確保します。

- ・浴室改修(ユニットバス化)2戸/年【3,340千円】
- ・年次的住宅屋根補修【746千円】

★統廃合校舎・教員住宅の後利用等検討

■地域の要望・町全体の施設需要を整理し、ムリ・ムダを極力抑えた後利用等の検討(薫別・古多糠小中)

重点テーマ③ 『学びを広げるための『協定大学を活用した教育力のレベルアップ』』

★教育課程外の学習支援の充実

■大学生による児童生徒の学習習慣や基礎・基本の定着に向けた支援と学びの機会の充実を図ります。

- ①小中学生学習支援事業等【730千円】
夏季休業期間中の補習授業
(学びサポートサマー教室)【道創教大】
- ②小学生理科教室等【200千円】
前浜の海洋プランクトン観察
(海の体験科学教室)【東農大】

★ふるさと学習・体験学習等への支援

■地域の魅力を児童生徒が「伝え合う力」と地域の「教育力」の向上をめざす体験活動を支援します。

- ①地引網体験学習【道創教大】
- ②通学合宿などの社会教育事業【道創教大】
- ③北方領土学習やアイヌ学習の推進

『地域の大きな課題『標津高等学校の魅力づくりと存続対策』』

★標津高校教育振興会への活動支援

- ①進路指導強化対策(学力向上)【350千円】
・各種資格取得受講料助成(検定料の1/2を助成)
- ②通学費補助【14,936千円】
・町内通学生:全額補助
・町外通学生:3/4補助
- ③寮入居経費の助成【515千円】
・寮住宅料の一部減免
・寮共通経費の助成
- ④日本の伝統文化にふれる体験学習への助成
(修学旅行費)1人50,000円【3,100千円】
- ⑤教育振興・広報事業への支援【939千円】
・ひろば発行年4回
・学校紹介カラーパンフ作成
・学校紹介ポスター作成 他

ソフト的な取り組み

★庁舎内プロジェクトチームによる町挙げての応援体制の推進

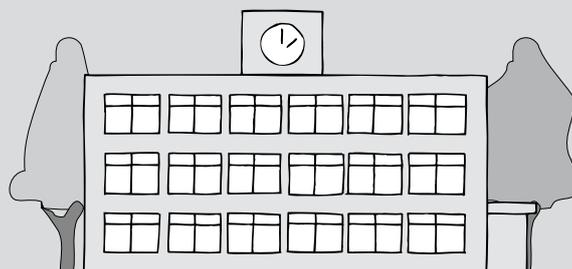
- ①町内中学校へのPR活動
- ②高校に対する認識を深める研修(授業参観等)

★高校や高校振興会、高校同窓会との連携によるPR活動の徹底や出口等対策強化

- ①学校説明会及び体験入学の実施
- ②生徒募集要請管内中学校訪問
- ③生徒就職要請事業所訪問
- ④インターンシップ事業による受け入れ

★地元高校と中学校との連携強化

- ・出前授業の継続
- ・学年交流会の実施



平成23年度 全国学力・学習状況調査結果より

23年度の全国学力・学習状況調査は、東日本大震災の影響で実施時期もずれ込んだことなどから全国的なデータ集約ができず、全国平均や都道府県毎の詳しい分析がなされなかったことから、このたびは、北海道（札幌市を除く）の実施結果や分析と比較して、標津町の子どもたちの到達点や課題について報告します。



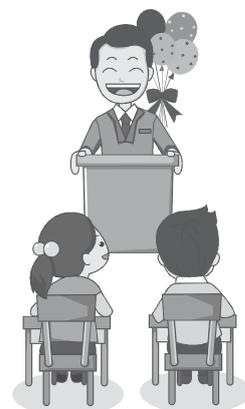
◆小学生◆

町内4小学校とも、国語A・国語B・算数A・算数Bの教科で、全道平均を大きく上回っています。各小学校では、朝ドリル・放課後学習・家庭学習など、学校あげて全ての学年で取り組まれています。また、毎日の授業でも、その時間で学習する課題を子どもがわかるので進んで課題を解決しようとし、まとめと確認に到るまでの一連の学習を先生方が大事にしながらコツコツと積み重ねて着実な定着を図ってきたことが、子どもたちにとって確実に身につけてきたものと言えます。

しかしながら、国語では、決められた字数の範囲内で書くことができるようになることが今後の課題です。その内容については

- ①主語や述語の関係など文のつながりが分かり易いか
 - ②学習した漢字を正しく使っているかなど、書いたものを振り返ったり、よりよい表現に書き直す習慣をつけること
 - ③その時点において、国語辞典や漢字辞典を積極的に利用できるようにすること
- が大切です。

算数では、かけ算九九やわり算、小数・分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算の計算を確実に身につけ、間違いなどは繰り返して学習していくことが大切です。



◆中学生◆

中学生は、国語Aを除いて、国語B・数学A・数学Bでは、身につけていない分野が多くあり、課題が大きく残りました。

特に、数学では、文字を用いた四則計算や方程式（一元一次方程式・連立二元一次方程式・二次方程式）の問題の解決に向けて筋道立てて考えたことをノートにまとめる際に、言葉や数・式などで表すことを毎時間大事にして繰り返し学習することや復習などをして確実に身に付けていくことが大切です。授業の進め方での改善や学校あげて「基礎基本が身に付く」体制をより一層工夫して取り組んでいきます。

国語では、理由や根拠を明確にして論理的に書く活動を多く取り入れたり、表記や語句の用法や段落相互の関係や抽象的な概念を表す語句や慣用句、あるいは四字熟語などを使用する文章を簡潔にきちんと丁寧に書く機会を増やして習慣化していくことが大切です。学校生活全体を通して、授業感想はじめ課題に基づく文章や生徒会活動など、あらゆる場面で様々な文章をしっかりと書くことへの習慣化を図っていきます。

